

開催日時：2019年7月27日（土）09:45-15:30

参加者：全8校、生徒39名

（青森高校、弘前高校、田名部高校、八戸聖ウルスラ高校、三沢高校、青森南高校、八戸高校、青森明の星高校）

主催：青森県高等学校教育研究会外国語部会、PDA

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

講師：青森高校教諭、青森南高校教諭、三戸高校教諭、五戸高校教諭、三本木農業高校教諭、東京大学学生、PDA スタッフ

1. 開会式

即興型の英語ディベートは初めてだという生徒も多く緊張感が漂う中、青森県教育研究会外国語部会長・青森県立青森南高等学校校長である中道哲先生より「意欲的に今回の交流大会に参加した皆さんに敬意を評したいと思います。即興型の英語ディベートに取り組むことによってこれから先グローバル社会を生きる上で必要な能力が培われることを確信しているので、ぜひこの交流大会を有意義な1日にしてください。」と激励のお言葉をいただき、第4回青森県即興型英語ディベート交流大会が開幕しました。

その後、ルールのおさらいやPOI（質疑応答）の練習を行いました。モデルディベートをスピーチのメモを取りながら聞き、実際のディベートのイメージをつかんだらいよいよ他校の人とチームを組んでディベートを行うミックスディベートの始まりです。



青森県教育研究会外国語部会長 中道哲先生



元気よくPOI！！

2. ミックスディベート「大学入試の受験生には彼氏/彼女がいた方がいい。」

今回チームを組む他校の生徒と自己紹介をし、ミックスディベートの始まりです。初対面の生徒同士でしたが、身近なテーマに準備時間の議論は盛り上がりました。ディベートでも受験生の恋愛について自分の知っているエピソードを具体例として説明し場が盛り上がるなど、楽しくディベートをしている様子が見られました。



ミックスディベートでPOI！！



ディベート後はお互いの健闘を称え握手をかわします

3. 第1ラウンド「コンビニエンスストアの深夜営業をやめるべきである。」

いよいよ表彰に関わるラウンドの始まりです。ミックスディベートの時とは打って変わって、少し緊張した空気が流れている中、第1ラウンドが始まりました。ニュースや新聞でも頻繁に取り上げられているコンビニの深夜営業というテーマに、自分の知っている知識をスピーチに盛り込む生徒も見られました。ディベート後に行われるジャッジの先生からのフィードバックを真剣な面持ちで聞き、次に活かそうとメモを取る様子が見られました。



準備時間の様子（青森南A）



青森明の星A vs 八戸聖ウルスラ



八戸A vs 弘前

4. 昼食

ミックスディベートと第1ラウンドの合計2ラウンドを終え、少し頭が疲れたところで昼食時間です。味方チームと第1ラウンドの反省を次にどう活かすかについて議論したり、他校の生徒と第1ラウンドの話や部活動の話をしたり、積極的にコミュニケーションをとる様子が見られました。



5. 第2ラウンド「お店のレジ袋の有料化を義務づけるべきである。」

昼食をとってエネルギーをチャージしたところで第2ラウンドです。準備時間では第1ラウンドでジャッジから受けたコメントを思い出しながら、相手への POI をあらかじめ考えたり、具体例を考えたりする生徒も多く見られました。ディベートが始まると、環境への影響や、消費者の行動の変化などについて白熱した議論を繰り広げました。



青森南 B vs 八戸 B



田名部 vs 青森明の星 A

6. エキシビション「会社は週休3日制を導入すべきである。」

ジャッジをした講師がもう一度この人のスピーチを聞きたいと思った生徒が選出されるエキシビションディベート。エキシビションディベーターを発表するとチームから歓声が湧きました。準備時間中は PDA スタッフトして参加した東京大学の学生より、立論の組み立て方などについてレクチャーが行われました。準備時間が終わるとエキシビションディベートの始まりです。エキシビションディベートでは、ストレスが減ることで過労も減るのか、それともむしろ1日当たりの仕事の量が増えて過労に繋がってしまうのかといった観点や、ワークライフバランスや仕事の効率、給料などの観点からどちらがよいかなどについて白熱した議論が展開されました。また、POI も活発に行われるなど、それぞれの生徒がお互いの話をしっかり聞き、考え、レスポンスする様子が見られました。

ディベートが終わるとメインジャッジを務めた青森高校の當麻先生より勝敗の発表とその理由についての説明が行われました。



勢いよく POI !!



POI の応酬が続きます



當麻先生による勝敗の発表

7. 表彰

すべてのディベートが終わり、それぞれ優秀なパフォーマンスを行った生徒たちが表彰されました。

チーム賞

- 1位 青森 A チーム
- 2位 青森 B チーム
- 3位 青森明の星 B チーム



1位 青森 A チーム



2位 青森 B チーム



3位 青森明の星 B チーム

ベストディベーター

- さん (青森 A)
- さん (青森 A)
- さん (青森 B)
- さん (弘前)
- さん (田名部)
- さん (八戸聖ウルスラ学院)
- さん (八戸聖ウルスラ学院)
- さん (青森南 A)
- さん (青森南 A)
- さん (青森南 B)
- さん (八戸 A)
- さん (八戸 A)
- さん (青森明の星 B)



POI 賞

- さん (青森 A)
- さん (青森 A)
- さん (青森 B)
- さん (弘前)
- さん (田名部)
- さん (八戸聖ウルスラ学院)
- さん (八戸 B)
- さん (青森明の星 A)



エキシビションディベーター賞

- PM ——さん 青森高校
- LO ——さん 八戸聖ウルスラ高校
- MG ——さん 青森明の星高校
- MO ——さん 青森高校
- LOR ——さん 八戸高校
- PMR ——さん 青森明の星高校



8. 閉会・集合写真

全てのディベートが終了し、青森南高校の小角先生より「これからもっと青森に即興型の英語ディベートを広めていきたい。そのためには生徒と教員の協力が不可欠です。これからも一緒に頑張りましょう。」と励ましのメッセージをいただきました。最後に全員で集合写真を撮り、今年の青森交流大会を締めくくりました。



POI のポーズで集合写真

9. 参加者の声 (アンケートより抜粋)

- POI をいっぱいできてとても楽しかった。いろんな人とディベートできて、様々な観点から物事を見られるようになった。勝ち負け関係なく、自分の欠点は多く見られたのでそこを直したい。(青森高校)
- いろんな学校とディベートができてよかった。また今後もこういう機会があれば参加したい。(青森高校)
- 少ない。もっと回数を増やして欲しい。ミックスディベートをもっとやってもいいと思う。(青森高校)
- 普段の英語の勉強や英語での会話とは違った感覚で英語を使うことが新鮮だった。(弘前高校)
- ディベートはとてもおもしろかったです。また、AREA (Assertion・Reason・Example・Assertion) などディベートのコツもわかったので良かったです。(弘前高校)
- 最初にミックスディベートをやって、他の人と話せて緊張がほぐれました。そのあと待っている時間などにお互いの学校のことを話せて楽しかったです。(田名部高校)
- 今回初めてディベートをやって、自分の知識不足やリスニング力、即興でやる力のなさをとても感じました。同じ学校の先輩や、ほかの学校の英語のディベートはどれも即興なのにたくさんの例や POI でとても説得力があっすごいと思いました。エキシビションのディベートは同じ高校生とは思えないくらいすごくて、聞いてよかったです。(田名部高校)
- 英語でのディベートは今回が初めてでしたが自分の考えを相手に英語で伝えることの難しさ、相手や他の人たちの考えの多様さを体験できたのでとても楽しかったと思った。(八戸聖ウルスラ高校)
- 同じ Government (肯定) 側でも違う意見が出たり、お互いにディベートし合うことで新たな視点でものを見ることができて楽しかったです。(八戸聖ウルスラ高校)
- ディベートが始まったときはすごく緊張して、できないと思っててネガティブな気持ちになったけどだんだんうまく伝えられない悔しさや話せてる人を見て、こうなりたいという気持ちになることができました(三沢高校)

○最初はあまり乗り気ではなかったけれど、同じ学校の仲間たちと協力して1人目～3人目まで発表し終えた後、達成感が良く楽しいと感じた。考えることは大変だけど、自分で調べたり、仲間と相談して英文を作成することはとてもおもしろい。(三沢高校)

○実際に自分よりレベルの高い人のディベートを見れてよかった。単純な英語力でなく深く考えた上での様々な意見をつながりを考えながら話すのはこれから自分に必要なスキルの一部だと思った。(青森南高校)

○最後のエキシビジョンディベートがすごかった。英語をしゃべる授業を普段からしたい。(青森南高校)

○短い時間で説明を考えるためのポキャブラリーや話し方を学べた。(青森南高校)

○初参加で緊張しましたが、とても楽しく取り組むことができました。また、英語による表現だけでなく、現代社会の問題も知らなければならないと思いました。他の学校の生徒とも積極的にはなすことができ、普通ではできないことだったと思います。今日学んだことを持ち帰って更に自分の気持ちを高め、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。(八戸高校)

○今日は初めての経験ができて楽しかったです。コツや自分の改善点も教えてくださって大変勉強になりました。学校でもぜひやってみたいと思います。前提知識となる社会の知識も不足していたと思うので、これをきっかけに幅広い知識を持っていきたいです。(八戸高校)

○学ぶことが多すぎてとても楽しかった。世界観が広がった！ととてもなくいい経験になった。(青森明の星高校)

○他校の生徒とディベートという形での交流は初めてでとてもおもしろかったし、緊張したのと同時にいい経験になった。明の星では即興型ディベートはないのでぜひ取り入れてほしいと思った。とても良い日でした。(青森明の星高校)

○年々議論の質が高くなっていて、その伸びを見るのが特に楽しかったです。(教員)

○即興ということでかなり難しい活動だと感じましたが、生徒たちが一生懸命互いの英語を聞き、話していたのですばらしいと思いました。他校の生徒同士交流できているいろいろ話せていたようだったので、その点においても良い取り組みだと思います。(教員)

○授業の中でも今回のようなディベートを是非実践してみたいと感じた。ディベートを通じて英語でコミュニケーションをとる楽しさや難しさ、他にも身近な話題について興味関心を深めることを生徒に体験させていきたいと感じた。(教員)

○チームだからこそ、人前で英語を使ってやりとりできるように各生徒が務め、テーマへの理解も深まるのだと思った。(教員)

○他校の生徒たちの議論を見て聞いてとても刺激になった。本校の生徒にとっても自分の意見を伝えることができ、とても良い経験となった。(教員)

○教員としても他校の生徒の英語力を感じられる機会は少ないため、とても刺激になりました。また、ディベートの形やジャッジの流れについても学ぶことができ、今後の授業や指導に活かしていきたいと思います。(教員)

○授業の幅が広がったように思います。何より生徒が楽しみながらやっているのが嬉しかったです。(教員)

○即興がたディベートが生徒の英語力向上につながることを実感した。(教員)

○高校生の生徒にとっては力を試す良い機会だったと思います。(教員)

○生徒たちが一生懸命英語を話していて改めてディベートのよさに気づくことができました。(教員)

○レベルの高い英語ディベートに触れることができました。(教員)

○ディベートに取り組むときに難しいと感じてハードルが上がってしまいがちですが、生徒の様子をみると楽しそうにやっていたので、ディベートは楽しいものだと感じてできるよう、工夫して授業に取り入れていきたいと思った。ディベートを通して生徒のモチベーション、思考力など様々な力が身につくが、継続して取り組むことが大切だと思った。(教員)